

やまと芸術文化ホールの運営状況について

1. セルフモニタリング

＜パフォーマンス指標＞ 令和7年4月1日～令和8年3月31日

項 目		目標値	実績	総 括
2. やまと芸術文化ホール				
(1) 年間来場者数		250,000 人	243,731 人	貸館事業の高稼働及び文化芸術事業の完売による来場者数増で前年を超える集客はできたが、減免団体等の利用取り消し等が響き、目標未達となった。
(2) 施設稼働率(日数)		87%	95%	高い稼働率を維持し、前年(94%)を超える稼働率を実現した。
(3) 文化芸術事業	実施回数	24 回	25 回	学校プログラムを予定の2校から3校に増やしたため、全25事業の開催となった。 ・芸術鑑賞事業8事業 ・創造活動支援事業6事業 ・人材育成・普及事業6事業 ・連携事業5事業
	来場者数	8,000 人	18,998 人	公演ターゲットにあわせた広報計画を立案・実行。これまで培ってきた経験を生かした広報に加え、地域媒体と関係性を構築してきたことで多くの情報が取り上げられ、集客につながった。芸術鑑賞事業では6本が完売となり、ギャラリーの2事業でも約8,000人の来場者、目標を超える来場につながった。
	満足度	90%	95%	様々な特性の公演を実施し、それぞれの客層に合わせたサービス体制を構築した結果、多くの方々からの高評価につながったと捉えている。
(4) 友の会会員数	会員数	15,000 人	14,294 人	入会促進のチラシ作成や配布、各公演チラシなどで友の会情報を掲載するなど、通年で告知を行ったことにより前年比では1,543人の増となった。

(5) ステージガイド発行回数	実施回数	4 回	4 回	ホール季刊紙として、6 月、9 月、12 月、3 月の計 4 回、計画どおり発行した。 文化芸術事業情報の媒体認知経路として 2 位に入り、この 5 年間で認知度、市民の活用度が高まった。
(6) 研修回数		12 回	12 回	業務知識や接遇品質の向上を目的に、利用者からの問合せ内容や実例を取り上げた研修を実施した。また自主事業公演「手話フェス(7 月)」や「避難訓練コンサート(3 月)」前には、聴覚障がいのある方への対応や災害時の避難誘導対応など、テーマに沿った研修内容でマインド醸成や施設内連携を深めた。
(7) 舞台に関する安全講習実施回数		2 回	2 回	舞台の安全な運用と緊急対応についての安全講習を計 2 回、その他利用者の安全にかかわる救命講習も実施した。
(8) 舞台に関する事故件数		0 件	0 件	

2. 利用者サービスに関すること

(1) ホール関連サービス

(対象施設：やまと芸術文化ホール)

基本方針

令和 7 年度は指定管理者第二期の最終年度として、やまと芸術文化ホールの基本方針である「文化芸術の力で、健康で豊かな心を育て、地域・まちを活気づけます」にのっとり、運営をしました。市民の皆様が文化芸術に触れる・携わることができるように心がけました。

サービス提供に関する取組

1) 柔軟なサービス提供

ア) 利用者満足度の向上につながるサービスの体現

初めて来館する方や初めて利用する方にもご理解いただけるように、またこれまで利用した方にも再度利用したいと思っていただけるように、様々なツールを活用しながらわかりやすい説明を心掛けました。また利用者のニーズをくみ取り、真意を引き出せるように、相手に合わせた確認の問いかけを適切に行い、話し方や話すスピードにも配慮し、利用者に寄り添う対応を実現しました。

イ) スタッフの教育研修

利用者の満足度向上につなげるため、年間を通して受付・事務所スタッフを対象としたスキルアップ研修を行いました。窓口寄せられる様々な問合せに迅速に対応できるように情報共有を密にはかり、チームワーク向上につなげました。6月にはホール設備である「難聴者支援システム」のしくみや取り扱いについて学び、7月の主催公演「手話フェス」のお客様対応に生かすことができました。3月の主催公演「避難訓練コンサート」に向けては、ホール事務室の災害対応や避難誘導について確認や事前準備を重ね、防災センターや舞台スタッフとの模擬練習を実施し連携強化につなげました。本社主催の研修や情報共有の場にも参加し、ネットワークを広げ、新しい知識や情報の収集に積極的に努め、運営ノウハウを吸収しました。

2)利用・鑑賞に対する支援について

ア) 主催公演におけるサービスの向上

来場者が公演をより安心して楽しんでいただくための環境づくりとして、手厚いケアが必要だと思われる客層が見込まれる公演では、レセプションを通常よりも多く配置し、サービス介助士や手話通訳者などの有資格者もご案内要員として配置しました。

直近で予定されている事業企画の共有については、月1回実施している受付研修や、週1回配信している事業メールで券売状況の進捗報告や今後の広報計画などを共有し、全スタッフで公演内容・準備進捗状況を把握できるような取り組みを行い、情報及びサービスの統一化を実現しました。

③ 事業報告

1) 事業方針及び事業内容

ア) 貸館事業

貸館事業においては、利用者の利便性向上をはかり、施設の稼働率を維持し収益を得るために、様々な施策に取り組みました。実施に当たっては、他施設の情報を積極的に収集し、利用者の声に耳を傾けながら多方向から検討しました。

a) 施設稼働率の向上

施設は市内団体等の活発な文化活動により高い稼働率を維持していますが、令和7年度は近隣施設の改修休館等による問合せや予約も見られるようになりました。また閑散期や利用取消等による空き区分の利用誘致を促進するためホームページ等に空き情報を掲載するなど、更なる利用促進に努めました。(稼働率/日数単位：年間平均95%)

b) 施設下見会・レクチャー会の実施

新規でホールを利用する方をターゲットとしたホール下見会を開催しました（6 月）。案内はツアー形式をとり、ホワイエ・楽屋・搬入口・客席・舞台をまわりながら説明し、舞台は、反響板仕様・幕舞台仕様・平土間仕様のグループに分かれて舞台技術スタッフも立ち会いました。具体的なレイアウト・照明演出方法・備品等の説明、舞台進行の段取りなど個別相談にも親身に対応し、イベント催事の円滑な運営をバックアップしました。

またギャラリー利用においても、ギャラリーの設備や備品の使い方を実物に触れながら伝えるギャラリーレクチャー会を開催し（12 月）、利用者の活動支援につなげました。

c) 施設利用例の紹介

施設を利用するイメージをより具体的に持っていただけるように、利用日の 1 カ月前を目安に実施する利用者との舞台打合せなどにおいても施設利用例を紹介し、利用者のイベント催事の魅力を引き出すよう対応しました。また令和 8 年 4 月からの附属設備料値上げに伴い、予約を開始する令和 7 年 4 月から利用者へ向けた告知をホームページや口頭で開始するとともに、ルールや料金改定を反映した施設利用のご案内チラシをわかりやすく改訂しました。3D 施設見学の二次元コードをレイアウトするなど、利用者の利便性とアクセス向上につなげる工夫を行いました。

イ) 文化芸術事業

文化芸術事業では仕様書にのっとり、4 種別・全 25 事業を実施しました。芸術鑑賞事業では全 8 公演のうち 6 公演が完売。またギャラリー展示での来場者が想定よりも大幅に増えたこともあり、令和 6 年度よりも 3,000 人以上多くの方が自主事業に来場しました。事業計画書提出時は 24 事業を計画していましたが、学校プログラムで 1 校追加して実施をしたため、25 事業を開催しました。（別紙芸文 1 参照）

○令和 7 年度 やまと芸術文化ホール 文化芸術事業

a) 芸術鑑賞事業

市民の多様なニーズに応え、幅広い世代の市民が来場することを期待し、クラシックから伝統芸能、ディズニーコンテンツまで多様なジャンルを取り上げ、全 8 事業を実施しました。

中でも大和市出身のアーティストにフォーカスした「新日本フィルハーモニー交響楽団 featuring YAMATO Players」では、3 名の大和市文化芸術顕彰受賞者をソリストに迎え、市内外に対し大和市の文化度をより強く発信することにつながりました。また、やまと芸術祭の期間中に開催したバレエ公演では、令和 6 年度に引き続き市との連携で来場者へポストカードを配布するなど、公演の盛り上げにつなげました。



Disney World Beat 2025

新日本フィルハーモニー交響楽団
feel YAMATO Players

芸術鑑賞事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
4/19 (土)	メイン ホール	Disney World Beat 2025	総勢 21 名のビッグバンドが、映像アニメーションに合わせてディズニーの名曲を届けるコンサートを開催しました。 ジャズをはじめとし、ラテンやソウルなど多彩なアレンジに加え、歌や踊りもある豪華な演出も加わり、若い世代を中心に幅広い客層が市内外から来場され、施設の認知度向上にもつながりました。	885 名(完 売)
5/16 (金)	メイン ホール	神田伯山 独演会	講談師の中でも、日本屈指の実力と人気を誇る神田伯山の独宴会を開催しました。 今回の公演では講談を初めて聞く方が多く、演者側の色々な講談を聞いて欲しいとの思いから、当初の予定よりも 1 席多く 4 席を披露されました。来場者からは、伝統芸能の魅力や面白さの新たな一面を知ることができた。という声が多く寄せられ、市民の伝統芸能に対する理解の深さやニーズの高さを改めて知る機会となりました。	756 名 (完売)
6/29 (日)	メイン ホール	LEO×ワルター・ア ウアー デュオ・リ サイタル	メディアでも活躍している若手箏アーティスト LEO と、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席フルート奏者ワルター・アウアーによる、異	881 名

			色のコラボレーションによるリサイタルを開催しました。西洋音楽と邦楽の音楽性や特性を理解し、尊重し合いながら、変幻自在に音楽を奏で、豊かな響きを誇るホールとの相性の良さを感じていただく機会となりました。	
8/23 (土)	メイン ホール	Everly 夏休みファミリー コンサート	0 歳から入場可能な夏休みの親子向けのコンサートとして開催しました。クラシックやポップス音楽をアレンジしたエンターテインメント性あふれる演出に加え、ヴァイオリン、ピアノ、ギター、ドラム、ユーフォニアム、尺八と特殊な編成を生かした演奏で、小さい子どもから大人までを虜にしました。それに加えて観客を巻き込む巧みな演出により、終始大いに盛り上がり、初めての音楽体験として有意義な機会としていただけました。	814 名 (完売)
10/5(日)	メイン ホール	キーウ・クラシック・バレエ チャイコフスキー 夢の3大バレエ 名 場面集	バレエ大国ウクライナの本格バレエ団による公演を開催しました。内容は、チャイコフスキーの3大バレエ作品『くるみ割り人形』『白鳥の湖』『眠れる森の美女』から名場面をハイライトにし、バレエ鑑賞が初めての方や小さな子どもを連れたご家族などもお楽しみいただくことができました。また、大和市を挙げて開催している「やまと芸術祭」の特別公演の位置づけとしてもアピールできたことで、市の取組を周知することにつながりました。	882 名 (完売)
12/27 (土)	メイン ホール	新日本フィルハー モニー交響楽団 feat. YAMATO Players	大和市ゆかりのクラシック奏者をソリストに起用した、新日本フィルハーモニー交響楽団による協奏曲プログラムを開催しました。地元特化型の企画だったことから、地元メディ	842 名

			ア 3 社 (J:COM、YM やまと、タウンニュース) に協力を仰ぎ、市内への広報を力強く展開。大和市の文化普及と新規顧客の獲得の両面で大きな後押しとなりました。年末の最後に“大和独自”の企画で、文化力の高さを周知する機会となりました。	
1/15(木)	メインホール	フォレスタ 新春コンサート in 大和	主催公演としては初となる平日昼間の公演として、高齢者層から高い支持を受ける「フォレスタ」(混声合唱)の公演を開催しました。唱歌や日本歌曲、洋楽など幅広いジャンルの合唱曲に加え、お客様の心をくすぐるような、ほっこりした演出や、語りかける優しいトークなど、細かな点にまでこだわりを持った演出で、新春のひとときを鮮やか彩りました。	858 名 (完売)
3/15(日)	メインホール	YAMATO String Quartet 31st ~ classical & unlimited ∞	神奈川県を拠点に活動する神奈川フィルのコンサートマスター、石田泰尚が所属する弦楽四重奏団によるコンサートを開催しました。前後半でテーマを変え、コアなクラシックファンからライトなクラシックファンまで、どなたでも満足いただけるよう、プログラム内容を出演者と調整。素晴らしい演奏とも相まって、コンサートの最後にはスタンディングオベーションが起こるほどの熱狂に包まれました。ホールが誇る響きの良さを体感していただく機会となりました。	927 名 (完売)

b) 創造活動支援事業

「市民、ホール、文化」をつなげるため、市民が主体的に関わる機会創出につながる創造活動支援事業は、全 6 事業実施しました。

大和市在住のチョークアーティスト金城まみ（令和 4 年度大和市文化芸術顕彰受賞）を講師に迎えたしずるボードのワークショップと、その成果展示を実施しました。ワークショップには小学 4 年生から高

校 3 年生の 19 名が参加し、それぞれの感性を光らせる作品を完成させました。また
市民公募による「市民がつくるコンサートシリーズ」では、“コーラス”を初めて取り上げ、団体ごとの演奏のほか、合同合唱を行うなど、市民の交流を促進するための仕掛けを取り入れ、開催しました。

創造活動支援事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
4/26(土)～ 5/6(火・祝)	ギャラリー	絵本作家 ひらぎみつえ あそべる絵本展	代表作に『お?かお!』『ころりん・ぱ!』などのしかけ絵本や、『もふもふちゃん』などの幼少期の子どもたちに人気の高い絵本を手掛ける、ひらぎみつえの絵本展を開催。「見て、読んで、さわって」をコンセプトに、絵本作品や、大型しかけ絵本のパネルなどを展示しました。図書館とも連携し、作家本人によるワークショップや司書による絵本の読み聞かせなど、絵本展にとどまらず、館内へ企画の拡がりを持たせることにより、更なる来館誘致につながりました。	6,986 名
7/27 (日)	メイン ホール	みんなの音楽会 シリーズ vol.7 手話フェス～ Song of Sign in YAMATO～	すべての人が文化芸術に触れる機会を創出する「みんなの音楽会シリーズ」の第 7 弾として、手話パフォーマーの HANDSIGN が総合プロデュースをする「手話フェス」を開催。鑑賞サポートとして、難聴者支援システム、舞台手話通訳者、Uni-Voice（視覚障がい者向け音声読み上げ機能）、点字プログラムなどを採用した上、安心してご来場いただけるよう、客席案内係にサービス介助士や手話通訳者を配置するなど環境整備にも配慮し、文化芸術が果たせる「共生社会の実現」を体現する企画となりました。	733 名
9/15 (月・祝)	メイン ホール	市民がつくる コンサートシリーズ vol.9	大和市で演奏活動を行うコーラス団体を公募し、高校合唱部から、平均年齢 70 歳を超えるシニア合唱団まで	参加者 約 250 名

		SiRiUS コーラス祭	11 団体が出演しました。今回の新たな取組として、大和市音楽家協会会長・加藤大聖を指導者に迎え、参加団体からの選抜メンバーによる特別合唱団を編成。フィナーレに特別合唱として「時を超えて」を披露しました。またアンコールでは、会場全員で「翼をください」を合唱。出演者も観客も一体となり、会場はあたたかな空気に包まれました。	入場者 739 名
12/7 (日)	メイン ホール	市民がつくるコンサートシリーズ vol. 10 SiRiUS DANCE STAGE	大和市で活動する市民 DANCERS を公募し、小学生からシニア層までが所属する 8 団体が出演。ヒップホップ、モダンダンス、フラダンス、ジャズダンスなど様々なジャンルのダンスを披露。今回は、初めて大きな本番に臨む子どもたちや、新たに結成したグループの出演、この本番に向け準備した新たなプログラムを披露するなど、それぞれの団体が思いおもいのパフォーマンスを披露しました。各団体の幕間では出演者へのインタビューなども行い、市民活動の告知をする機会に繋がりました。	参加者 85 名 入場者 739 名
12/26 (金)	サブ ホール	< 関連イベント > YAMATO Players による スペシャルプレトーク	新日本フィルハーモニー交響楽団 feat. YAMATO Players に出演する大和市ゆかりのソリストと指揮者をパネラーに迎え、クラシック音楽ファシリテーター・飯田有抄による進行にて、翌日に控えた本番を深掘するプレ・イベントを実施しました。演奏者側が感じる本番への貴重な思いや、意気込みなど、普段あまり聞くことができない貴重な内容が語られました。	39 名
【ワークショップ】 1/11 (日) 1/25 (日)	マルチス ペース ギャラリー	【ワークショップ】 金城まみ シズル ボード ワークシ	大和市内にアトリエを構えるチョークアーティストの金城まみとの共同で、小学 4 年生～高校 3 年生対象に「シズルボード」ワークショップを開	ワークショッ プ 参加者 19 名

2/1 (日) 2/8 (日) 2/22 (日) 【展示】 2/27 (金) ～3/1 (日)		ヨッポ 【展示】 「見て味わう、おいしいアート展」	催しました。全 5 回のワークショップの中で、画材の扱い方や描きたい食べ物により良く見せるためのレイアウト、シズルボードの特徴でもある文字の入れ方などを習いながら作品制作に向かいました。 展示発表では、参加者が自身の作品を説明した後、講師から講評とワークショップ修了証を授与しました。一人ひとりの本気と頑張りを認め、今後の芸術活動を後押しする機会となりました。	展示 791 名
--	--	-------------------------------------	---	-------------

c) 人材育成・普及事業

一流のアーティストに直接指導を受けるバレエレッスンや楽器体験、地域のアーティストに協力を仰ぎ、学校へ赴き、授業を行う学校プログラムなどを実施しました。未就学児から中学生まで次代を担う若年層を中心に行い、文化芸術の「扉をひらく」「深く知る」ことに加え、文化芸術への興味を育む機会として全 6 事業を実施しました。



人材育成・普及事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
6/27 (金)	メイン ホール	憧れのアーティストによる夢のレッスン～ワルター・アウアーによるフルートレッスン	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席フルート奏者ワルター・アウアーによるクリニックを実施しました。中学生・高校生の吹奏楽部部員を対象とし、基礎的奏法の指導を頂きました。聴講生も多く参加し、講師の指導に耳を	【受講者】 中学校 7 校・25 名 高校 4 校・8 名 計 33 名

			傾けていました。世界の第一線で活躍するフルート奏者との交流により、若い世代の文化芸術振興と育成につながりました。	【聴講生】 中学校 183 名 高校 40 名 計 223 名
7/11 (金)	下福田 小学校 音楽室	学校プログラム 「雅楽の調べ」	学校からの要望を受け、6 年生 3 クラスを対象とする「雅楽」のアウトリーチ活動を実施しました。出演は大和市雅楽協会会長・松永耕作へ依頼し、笙、箏、龍笛のトリオの編成で、雅楽の代表曲や楽器説明などを行いました。会場が音楽室だったことから、楽器に触れたり、間近で雅楽の音楽を聞いたりする貴重な機会になりました。	100 名 (教職員含む)
8/24 (日)	メイン ホール	子どものための楽器体験 ガムラン・トゥラン・ブーラン for KIDS	未就学児と小学生を対象に、バリ島の伝統音楽であるガムランを取り上げ、それぞれ 1 回ずつ実施しました。様々なガムラン楽器と一緒に演奏することで紡ぎだされる独特のうねりを間近で感じ、音楽に合わせて舞も体験。異文化に触れる面白さや楽しさを知るだけでなく、舞台上という特別な環境だからこそ感じる希少な機会を通じ、ホールや文化芸術に興味を持つきっかけを創出することにつながりました。	未就学児の回 20 名 小学生の回 18 名
10/5 (日)	メイン ホール	キーウ・クラシック・バレエ団による公開リハーサル・バーレッスン	大和市のバレエ教室を対象に、バーレッスンの共演とリハーサル公開を実施しました。バーレッスンには、小学生から中学生までの 5 名が参加し、出演者とともにステージ上で体験する特別な機会となりました。リハーサル公開では、本番に向けて調整や確認を行うプロの姿勢と、より良いパフォーマンス	リハーサル公開 38 名 バーレッスン 5 名

			ンスを追及し、話し合いなどを行いながら修正を加えていくリアルな様子を客席で鑑賞しました。この企画を通じて、子どもたちが本物を知る特別な時間となりました。	
12/16 (火)	西鶴間 小学校 体育館	学校プログラム やまと寄席～特別 編～ 落語のいろは	学校からの要望を受け、6年生を対象に「落語」のアウトリーチを実施しました。出演は、大和市ゆかりの落語家・柳家あお馬と太神楽師・鏡味仙成の2名に依頼。落語の所作や小物の説明に加え、教科書に掲載されている「寿限無」「初天神」など、指導要領にあわせた内容で構成しました。古典芸能を間近で鑑賞する特別な機会につながりました。	135 名 (教職員含む)
1/19 (月)	柳橋小学 校 体育館	学校プログラム 「雅楽の調べ」	学校からの要望を受け、6年生を対象とする「雅楽」のアウトリーチ活動を実施しました。出演は大和市雅楽協会会長・松永耕作へ依頼。笙、箏、龍笛のトリオの編成で、雅楽の代表曲を演奏し、楽器の説明などを行いました。また、体験用の楽器もご用意いただき、楽器に触れる特別な機会を設けました。楽器の面白さや難しさを知り、鑑賞だけでは得られない特別な機会となりました。	90 名 (教職員含む)

d) 連携事業

施設の特性を取り入れた本を題材とした事業、神奈川県高齢者福祉施設協議会との連携、地域メディアとの協働企画に加え、施設内のスターバックスコーヒーとの連携企画など、ホール内にとどまらず、様々な場所・人と連携を試み、事業を実施しました。

中でも開館以来“初”となる有観客での避難訓練コンサートでは、大和市をはじめ、大和市消防本部や横浜市消防音楽隊などとも連携を図り、防災への啓発、施設としての防災への取組を周知することができました。東日本大震災から15年という節目の年に、施設内スタッフ、利用者、共々防災への意識醸成が再びできたのではないかととらえております。連携事業は、全5事業を実施しました。



連携事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
9/23 (火-祝)	メイン ホール	伊藤花りん サ ン ド ア ー ト ・ パ フ ォ ー マ ン ス ・ コ ン サ ー ト	「アート」と「音楽」を掛け合わせた、新たなスタイルのコンサートを開催しました。シリウスの施設特性にあわせ、「シンデレラ」「不思議の国のアリス」「かぐや姫」など、誰もが手にしたことのある図書に関連した作品を中心に取り上げ、生演奏にあわせて移り変わる幻想的なサウンドアートの世界をお楽しみいただきました。	410 名 ※1階席のみ
10/24 (金)	みなみ風	みんなの音楽 会 出張版 み る と の “オ カ リ ナ ・ コ ン サ ー ト”	令和 7 年度から大和ケアマネージャー連絡協議会に代わり、神奈川県高齢者福祉施設協議会との連携を開始し、訪問する大和市内福祉施設を決定しました。演奏は大和市ゆかりのオカリナ奏者・みるとに依頼をし、歌謡曲やスタンダードジャズ、唱歌などを中心に構成しました。入所者は、演奏に合わせて手拍子や歌ったりと約 1 時間のミニ・コンサートを鑑賞。アンコールが終了した際は、万雷の拍手がなり続け、音楽を通じて心に豊かさを届けることができました。	105 名
12/20 (土)	サブホー ル	カフェとおん がく 〜ハンドフル ートの音色と コーヒーの香 り	毎年の恒例イベントとなったスターバックスコーヒーYAMATO 文化森店と連携したコンサートを開催しました。サブホール内を店舗に見立て、テーブルや椅子とクリスマス装飾や照明により、カフェ空間を創り出しました。スターバックスコーヒーのバリスタたちによるコーヒー・トークとともに、ハンドフルート奏者・	1 回目 52 名 2 回目 30 名

			高山大知による演奏で構成。文化芸術を気軽に楽しむ機会につながりました。	
3/11 (水)	メイン ホール	避難訓練コンサート	シリウス全館および大和市消防署、横浜市消防音楽隊との協力のもと、初となる有観客での避難訓練コンサートを開催しました。平日昼間の公演にもかかわらず、お客様参加型訓練として各所からも注目度が高く、チケットは早々に予定枚数終了となりました。 また今回の公演にあわせて、同日にサブホールで大和市消防署による啓発イベントを実施し、約 250 名の来場者がありました。日々の生活の中での備えや心構えを学び、施設の防災に対する取組をお知らせすることで、安心してご利用いただける施設であることを周知する機会となりました。	526 名 (予定枚数 終了)
3/20 (金・祝)	イトーヨー カードー 大和鶴間 店 2 階催事 スペース	FM やまと × やまと芸術文 化 ホール × J:COM presents 春のうらら か”ちょこっ と”コンサー ト	地元のメディアとの協働で「企画→広報→当日運営→事後広報」をともに展開したイベントを開催しました。「地域に根差した活動をし、大和市の魅力を発見する」というねらいを掲げ、地元アーティストに出演を依頼。一回目はオカリナ奏者・みると率いるデュオによるファミリー向けプログラム。二回目はシンガーソングライター宇雪による大人向けのプログラムで構成し、文化芸術を身近に感じてもらうとともに、地域と文化芸術をつなぐ機会を創出しました。	【1 回目】 150 名 【2 回目】 90 名

ウ) 市民参加型事業

地域の文化施設を支える市民とのつながり築くため、次世代育成の取組に協力し、主催事業を支えるコアファンである友の会会員への継続的なサービスの提供に加え、主催事業へご来場された市民の生の声に耳を傾けるなど、一人ひとりのニーズに寄り添えるようなサービスを実現し、施設への愛着につながるような活動につなげました。

a) 市内小中学校の受入れ

令和 7 年度は小学校からの希望が無かったため、学生を対象にした施設見学会の実施はありませんでした。中学校の職場体験では 2 校の受入れを行いました。ホールの様々な専門スタッフの仕事を体験してもらい、仕事の面白さや奥深さを知っていただく機会となりました。

b) アンケートの実施と分析

令和 7 年度も主催公演にて来場者に向けたアンケートを実施し回収しました。回収率は平均で 25%を超え、来場者の平均年齢が高い公演ほど、アンケートの回収率も高くなる傾向にありました。また、ウェブアンケートも同時に実施しており、若い世代の来場者が多いほど、回答割合が高くなることが結果として示されています。また、ウェブアンケートの回答率は全体の約 5%で、令和 6 年度とほぼ同率でした。その他、お住まいや公演満足度、認知経路なども令和 6 年度比で大きな変化はありませんでしたが、50 代の来場割合が減少し、80 代の来場割合が増加した点においては、高齢層をターゲットにした企画を誘致したことが大きな要因と考えられます。多くの方から様々な声が寄せられていることを踏まえ、令和 8 年度以降の自主事業の開催において、より良い企画、サービス展開につなげられるよう参考にしてまいります。

c) 友の会会員獲得に向けた広報活動の実施

友の会会員の獲得への施策として、半期ごと作成する入会促進用のチラシとともに、自館で発行する媒体には、友の会特典の案内など広報活動を展開しました。会員特典の一つであるメールマガジンでは、自主事業の告知だけでなく、アーティストインタビューや実施後の公演レポートなど、ホールの取組を知るためのツールとして、定期的に発信を行いました。その結果、主催公演チケットを購入された約 60%の方が友の会会員という結果につながりました。

エ) 情報発信事業

市民の方が情報を得られる機会を少しでも多くするため、市内公共施設への配架やポスター掲示、近隣施設への配架協力依頼、関係団体からの情報発信など、芸術文化ホールの活動周知のための取組を推進しました。

a) 定期広報紙「ステージガイド」を使用した広報

イベント情報の告知だけでなく、読み物としての紙面価値を向上させるため、各号で注目のアーティストへのインタビュー記事を掲載しました。また裏面に掲載しているイベントレポートでは、文化振興を目的とした事業を多く取り上げ、公演事業だけでなくホール事業の取組を伝える媒体としての役割も担いました。

b) ホームページと各広報媒体との連動

アーティストインタビューを行った事業では、全文をホームページに掲載し、一部抜粋したものを紙の広報媒体に掲載し、二次元コードで WEB へ誘導するなどを行いました。

また、ホームページ内のページを一部システム改修し、より分かりやすい構成になるように修正しました。YAMATOMIRAI ポータルサイトでは、情報制限のある事業以外、イベントレポートを掲載し、ホー

ルの取組を広く周知しました。

ホームページへの流入経路については、紙媒体からの流入数は多くないものの、一定数あることは確認されているため、どの媒体においても終着地はホームページであるように情報の統一を図りました。

c) ポスターボードやチラシ Rack を活用した情報発信

事業の認知経路の上位に位置するチラシやポスターによる情報発信だけでなく、チラシ Rack 横に出演者のインタビュー動画を放映したり、図書館との協力で関連図書との連携をしたり、より効果を高めるための施策を行いました。これまでどおり、館内外のポスターボードやチラシ配架や設置などは、継続的に実施し、より多くの方の目に留まるように広く展開をしました。

d) 各種媒体への情報掲載

事業ごとにプレスリリースを作成し、各種媒体へ定期的なリリースの配信を行いました。紙媒体だけではなく、地域情報を発信しているウェブサイトなどにも情報掲載を依頼し、多くのメディアで取り上げられました。

e) 地元媒体との連携強化

地元アーティストを取り上げる事業では、地域メディア 3 社と広報協力体制を築き、テレビ・ラジオ・地域情報誌からの情報発信を行うだけでなく、出演者を稼働した取材の受入れや、担当者が番組に出演しての告知を行うなど、市内への情報発信を強化しました。

2) 実施体制

芸術文化ホールには貸館事業を担う運営部門、文化芸術事業を担う事業部門を設置し、円滑なホール運営を行いました。さらに芸術文化ホールの広報部門がやまとみらい全体広報を担いました。舞台設備管理は株式会社シグマコミュニケーションズへ委託しました。

④ 舞台設備管理

舞台設備の管理においては、接客対応力および技術的専門知識の向上に継続的に取り組むとともに、文化芸術への理解を深め、市民文化団体や一般利用者と連携しながら、「市民が主役」となる舞台環境の実現を推進しました。

また、すべての利用者にとって安心・安全な環境の提供を最優先とし、安全管理体制の徹底と適切な運営により、信頼される施設運営に努めました。

さらに、指定管理者（サントリーパブリシティサービス株式会社）と連携し、各種事業に協力しました。具体的には、令和 7 年 11 月及び令和 8 年 1 月の中学生職場体験の受入れ、令和 7 年 8 月及び令和 8 年 3

月に実施されたシリウス探検ツアー、さらに令和 8 年 3 月に実施された避難訓練コンサートへの協力を通じて、施設の活用促進と円滑な事業運営に寄与しました。

プロ公演においては、外部業者と連携し、機材設営時の安全管理の徹底および法令に基づく作業手順の遵守、設備・備品の利用支援を実施することで、公演の円滑な進行を支えました。また、近隣管理施設との連携により、不測の事態に備えたバックアップ体制を維持し、安定した公演運営の確保に取り組みました。

1) 設備機器の安全確保

舞台設備および備品について、日常点検と定期保守点検を計画的に実施し、安全性及び安定稼働の確保に努めました。これにより、設備不良の早期発見と迅速な対応を実現し、重大事故の未然防止につなげました。

ア) 舞台技術スタッフによる日常点検・保守点検

技術スタッフは、作業開始前の目視確認に加え、作業中における異常音・振動・異臭の確認を徹底しました。不具合発生時には速やかに初期対応を行い、状況報告を作成のうえ専門業者と連携し、早期復旧に努めました。これにより、設備の健全性と継続的な運用を維持しました。

【主要な保守対応および修理履歴】

令和 7 年 5 月

音響: 仮設スピーカー低音ユニットに歪が発生。保守業者による持ち帰り修理を実施。

令和 7 年 6 月

舞台: 客席迫に異常が発生し、動作不良。保守業者を呼び、迅速に復旧対応を実施。

舞台: 舞台機構操作卓に不具合発生。保守業者を呼び、検証および復旧対応を実施。

令和 7 年 8 月

舞台: バトンから異音が発生。保守業者を呼び、対応後、部品交換を実施。

音響: 常設スピーカーの内部回路に不具合発生。保守業者と調整し、代替機と交換後、修理対応。

令和 7 年 11 月

照明: 調光卓に不具合発生。保守業者を呼び、調査後、代替機と入替え修理を実施。

令和 8 年 2 月

舞台: 袖幕のレールに異常発生。保守業者による調整を実施、年間保守計画に追加。

客席: 通路足元灯の外装破損。部品交換を実施。

イ) 専門会社による保守点検

音響・照明・舞台・客席設備について、専門業者による定期保守点検を実施しました。専門的視点による点検により潜在的な不具合の早期発見と適切な修繕対応を行い、施設全体の安全性と信頼性の向上を図りました。

また、ピアノについても計画に基づき定期調律および総合点検を実施し、良好な演奏環境の維持に努めました。

(定期保守点検)

設備	施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
音響	メインホール				7-9					24.25			
	サブホール					25.26					28		
照明	メインホール						2-4						17-19
	サブホール						8.9						3.4
舞台	メインホール		12			4.5			4.5			16	
	サブホール		12			5			4			16	
客席	メインホール					5						16	
	サブホール			4							20		

※定期保守点検は、各設備の専門会社に再委託しました。

(ピアノ調律・点検)

ピアノ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フルコン1	8		3		18		6		2		17	
フルコン2	8		3		19		6		2		17	
グランド	8		3		14 15		6		8		17	

※ピアノの定期調律・総合点検は、専門会社に再委託しました。

2) 設備機器の長寿命化

設備の長期的かつ安定的な運用を目的として、専門業者と連携し中長期的な修繕計画の検討および見直しを行いました。日常点検・定期点検で把握した不具合に対しては使用頻度の度合いを考慮して修理の優先順位を選定し、修理期間中もご利用者に不便をかけないよう配慮しつつ、必要に応じて代替え機との交換などの調整も行い、適切に対応しました。また、機器の耐用年数や劣化状況を踏まえた計画的な修繕を実施し、突発的な故障リスクの低減と設備の長寿命化を図りました。さらに、令和7年度は舞台機構操作卓クライアント PC の更新や三点吊マイク装置の滞っていた更新提案を進めるよう働きかけ、市及び指定管理者とベンダーとの間で専門的な立場からの橋渡し役を務めることで、連携をより円滑化しました。

3) 事故の未然防止

事故防止対策として、本社安全委員会より定期的に発行される「安全だより」を活用し、全スタッフへの継続的な情報共有を実施しました。

令和7年度は、5月に他施設での事故事例を共有し、類似事故の再発防止に向けた注意喚起を行いました。

た。7 月には熱中症対策の周知および本社から各事業所への冷却材配布が実施され、夏季作業時の安全確保を図るとともに、墜落制止用器具の耐用年数確認および安全点検についても周知しました。

9 月には救急車手配時の対応手順について共有し、緊急時対応力の向上を図りました。12 月には職場の安全に関する情報サイトの紹介および労働災害事例の共有を行い、安全意識の向上を促進しました。2 月には充電式蓄電池の危険性や関連事故事例、電源ドラムの安全な取り扱いについて周知し、日常業務におけるリスク低減に努めました。

さらに、必要に応じて安全運用ミーティングを実施し、5 月および 1 月には全スタッフを対象に安全管理に関する情報共有と認識の統一を図りました。特に 1 月のミーティングでは、避難経路や誘導方法、担当エリアの確認を行い、災害時対応体制の強化につなげました。

これらの取組により、安全意識の向上と危険予知能力の強化を図り、事故の未然防止に努めました。

4) 舞台安全マニュアルの活用

舞台安全マニュアルを活用し、日常業務における安全管理の徹底を図りました。また、現場運用や安全情報を踏まえ、内容の見直しを適宜実施しました。

7 月に、墜落制止用器具の点検にあわせて高所作業に関する安全対策の再確認を行い、高所作業マニュアルの見直しを実施しました。これにより、現場実態に即した実効性の高い内容へと更新し、作業時のリスク低減と安全性の向上を図りました。

5) 研修によるスタッフの育成

スタッフの専門性向上、安全意識の強化および接遇力の向上を目的として、各種研修を実施しました。

5 月 2 日から 4 日にかけて、他施設における技術研修に 2 名が参加し、舞台設備の運用技術や現場対応力の向上を図りました。5 月 14 日には全スタッフを対象とした舞台安全運用ミーティングを実施し、安全管理に関する共通認識の醸成を図りました。

9 月 22 日には普通救命講習（AED）に 2 名が参加し、緊急時の初期対応能力の向上を図りました。1 月 28 日には全スタッフを対象とした安全運用ミーティングを実施し、避難経路や誘導方法、担当エリアの確認を行いました。

さらに、2 月 16 日には接遇・対人スキル向上研修を実施し、利用者対応の質の向上に努めました。

これらの研修を通じて、技術力・安全対応力・接遇力の各側面におけるスタッフの能力向上を図り、質の高い施設運営体制の強化につなげました。

3. 利用者サービスに関すること

(1) ホール関連サービス

(対象施設：やまと芸術文化ホール)

基本方針

令和 7 年度は指定管理者第二期の最終年度として、やまと芸術文化ホールの基本方針である「文化芸術の力で、健康で豊かな心を育て、地域・まちを活気づけます」にのっとり、運営をしました。市民の皆様が文化芸術に触れる・携わることができるように心がけました。

サービス提供に関する取組

1) 柔軟なサービス提供

ア) 利用者満足度の向上につながるサービスの体現

初めて来館する方や初めて利用する方にもご理解いただけるように、またこれまで利用した方にも再度利用したいと思っていただけるように、様々なツールを活用しながらわかりやすい説明を心掛けました。また利用者のニーズをくみ取り、真意を引き出せるように、相手に合わせた確認の問いかけを適切に行い、話し方や話すスピードにも配慮し、利用者に寄り添う対応を実現しました。

イ) スタッフの教育研修

利用者の満足度向上につなげるため、年間を通して受付・事務所スタッフを対象としたスキルアップ研修を行いました。窓口寄せられる様々な問合せに迅速に対応できるように情報共有を密にはかり、チームワーク向上につなげました。6 月にはホール設備である「難聴者支援システム」のしくみや取り扱いについて学び、7 月の主催公演「手話フェス」のお客様対応に生かすことができました。3 月の主催公演「避難訓練コンサート」に向けては、ホール事務室の災害対応や避難誘導について確認や事前準備を重ね、防災センターや舞台スタッフとの模擬練習を実施し連携強化につなげました。本社主催の研修や情報共有の場にも参加し、ネットワークを広げ、新しい知識や情報の収集に積極的に努め、運営ノウハウを吸収しました。

2)利用・鑑賞に対する支援について

ア) 主催公演におけるサービスの向上

来場者が公演をより安心して楽しんでもいただくための環境づくりとして、手厚いケアが必要だと思われる客層が見込まれる公演では、レセプションを通常よりも多く配置し、サービス介助士や手話通訳者などの有資格者もご案内要員として配置しました。

直近で予定されている事業企画の共有については、月 1 回実施している受付研修や、週 1 回配信している事業メールで券売状況の進捗報告や今後の広報計画などを共有し、全スタッフで公演内容・準備進捗状況を把握できるような取り組みを行い、情報及びサービスの統一化を実現しました。

③ 事業報告

1) 事業方針及び事業内容

ア) 貸館事業

貸館事業においては、利用者の利便性向上をはかり、施設の稼働率を維持し収益を得るために、様々な施策に取り組みました。実施に当たっては、他施設の情報を積極的に収集し、利用者の声に耳を傾けながら多方向から検討しました。

a) 施設稼働率の向上

施設は市内団体等の活発な文化活動により高い稼働率を維持していますが、令和 7 年度は近隣施設の改修休館等による問合せや予約も見られるようになりました。また閑散期や利用取消等による空き区分の利用誘致を促進するためホームページ等に空き情報を掲載するなど、更なる利用促進に努めました。(稼働率/日数単位：年間平均 95%)

b) 施設下見会・レクチャー会の実施

新規でホールを利用する方をターゲットとしたホール下見会を開催しました(6 月)。案内はツアー形式をとり、ホワイエ・楽屋・搬入口・客席・舞台をまわりながら説明し、舞台は、反響板仕様・幕舞台仕様・平土間仕様のグループに分かれて舞台技術スタッフも立ち会いました。具体的なレイアウト・照明演出方法・備品等の説明、舞台進行の段取りなど個別相談にも親身に対応し、イベント催事の円滑な運営をバックアップしました。

またギャラリー利用においても、ギャラリーの設備や備品の使い方を実物に触れながら伝えるギャラリーレクチャー会を開催し(12 月)、利用者の活動支援につなげました。

c) 施設利用例の紹介

施設を利用するイメージをより具体的に持っていただけるように、利用日の 1 カ月前を目安に実施する利用者との舞台打合せなどにおいても施設利用例を紹介し、利用者のイベント催事の魅力を引き出すよう対応しました。また令和 8 年 4 月からの附属設備料値上げに伴い、予約を開始する令和 7 年 4 月から利用者へ向けた告知をホームページや口頭で開始するとともに、ルールや料金改定を反映した施設利用のご案内チラシをわかりやすく改訂しました。3D 施設見学の二次元コードをレイアウトするなど、利用者の利便性とアクセス向上につなげる工夫を行いました。

イ) 文化芸術事業

文化芸術事業では仕様書にのっとり、4 種別・全 25 事業を実施しました。芸術鑑賞事業では全 8 公演のうち 6 公演が完売。またギャラリー展示での来場者が想定よりも大幅に増えたこともあり、令和 6 年度よりも 3,000 人以上多くの方が自主事業に来場しました。事業計画書提出時は 24 事業を計画していましたが、学校プログラムで 1 校追加して実施をしたため、25 事業を開催しました。(別紙芸文 1 参照)

○令和 7 年度 やまと芸術文化ホール 文化芸術事業

a) 芸術鑑賞事業

市民の多様なニーズに応え、幅広い世代の市民が来場することを期待し、クラシックから伝統芸能、ディズニーコンテンツまで多様なジャンルを取り上げ、全 8 事業を実施しました。

中でも大和市出身のアーティストにフォーカスした「新日本フィルハーモニー交響楽団 featuring YAMATO Players」では、3 名の大和市文化芸術顕彰受賞者をソリストに迎え、市内外に対し大和市の文化度をより強く発信することにつながりました。また、やまと芸術祭の期間中に開催したバレエ公演では、令和 6 年度に引き続き市との連携で来場者へポストカードを配布するなど、公演の盛り上げにつなげました。



芸術鑑賞事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
4/19 (土)	メイン ホール	Disney World Beat 2025	総勢 21 名のビッグバンドが、映像アニメーションに合わせてディズニーの名曲を届けるコンサートを開催しました。 ジャズをはじめとし、ラテンやソウルなど多彩なアレンジに加え、歌や踊りもある豪華な演出も加わり、若い世代を中心に幅広い客層が市内外から来場され、施設の認知度向上にもつながりました。	885 名（完 売）
5/16 (金)	メイン ホール	神田伯山 独演会	講談師の中でも、日本屈指の実力と人気を誇る神田伯山の独宴会を開催しました。 今回の公演では講談を初めて聞く方が多く、演者側の色々な講談を聞いて欲しいとの思いから、当初の予定よりも 1 席多く 4 席を披露されました。来場者からは、伝統芸能の魅力や面白さの新たな一面を知ることができた。という声が多く寄せられ、市民の伝統芸能に対する理解の深さやニーズの高さを改めて知る機会となりました。	756 名 (完売)
6/29 (日)	メイン ホール	LEO×ワルター・ア ウアー デュオ・リ サイタル	メディアでも活躍している若手箏アーティスト LEO と、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席フルート奏者ワルター・アウアーによる、異色のコラボレーションによるリサイタルを開催しました。 西洋音楽と邦楽の音楽性や特性を理解し、尊重し合いながら、変幻自在に音楽を奏で、豊かな響きを誇るホールとの相性の良さを感じていただく機会となりました。	881 名
8/23 (土)	メイン ホール	Everly 夏休みファミリー コンサート	0 歳から入場可能な夏休みの親子向けのコンサートとして開催しました。クラシックやポップス音楽をアレンジしたエンターテイメント性あふれる演出に加え、ヴァイオリン、ピアノ、ギター、ドラム、ユーフォニアム、尺八と特殊な編成を生	814 名 (完売)

			かした演奏で、小さい子どもから大人までを虜にしました。それに加えて観客を巻き込む巧みな演出により、終始大いに盛り上がり、初めての音楽体験として有意義な機会としていただきました。	
10/5(日)	メインホール	キーウ・クラシック・バレエ チャイコフスキー 夢の3大バレエ 名場面集	バレエ大国ウクライナの本格バレエ団による公演を開催しました。内容は、チャイコフスキーの3大バレエ作品『くるみ割り人形』『白鳥の湖』『眠れる森の美女』から名場面をハイライトにし、バレエ鑑賞が初めての方や小さな子どもを連れたご家族などもお楽しみいただくことができました。また、大和市を挙げて開催している「やまと芸術祭」の特別公演の位置づけとしてもアピールできたことで、市の取組を周知することにつながりました。	882 名 (完売)
12/27 (土)	メインホール	新日本フィルハーモニー交響楽団 feat. YAMATO Players	大和市ゆかりのクラシック奏者をソリストに起用した、新日本フィルハーモニー交響楽団による協奏曲プログラムを開催しました。地元特化型の企画だったことから、地元メディア3社(J:COM、YM やまと、タウンニュース)に協力を仰ぎ、市内への広報を力強く展開。大和市の文化普及と新規顧客の獲得の両面で大きな後押しとなりました。年末の最後に“大和独自”の企画で、文化力の高さを周知する機会となりました。	842 名
1/15(木)	メインホール	フォレスト 新春コンサート in 大和	主催公演としては初となる平日昼間の公演として、高齢者層から高い支持を受ける「フォレスト」(混声合唱)の公演を開催しました。唱歌や日本歌曲、洋楽など幅広いジャンルの合唱曲に加え、お客様の心をくすぐるような、ほっこりした演出や、語りかける優しいトークなど、細かな点にまでこだわりを持った演出で、新春のひとときを鮮やか彩りました。	858 名 (完売)
3/15(日)	メインホール	YAMATO String Quartet 31st	神奈川県を拠点に活動する神奈川フィルのコンサートマスター、石田泰尚が所属	927 名 (完売)

		～ classical & unlimited ∞	する弦楽四重奏団によるコンサートを開催しました。前後半でテーマを変え、コアなクラシックファンからライトなクラシックファンまで、どなたでも満足いただけるよう、プログラム内容出演者と調整。素晴らしい演奏とも相まって、コンサートの最後にはスタンディングオベーションが起こるほどの熱狂に包まれました。ホールが誇る響きの良さを体感していただく機会となりました。	
--	--	---------------------------	---	--

b) 創造活動支援事業

「市民、ホール、文化」をつなげるため、市民が主体的に関わる機会創出につながる創造活動支援事業は、全 6 事業実施しました。

大和市在住のチョークアーティスト金城まみ（令和 4 年度大和市文化芸術顕彰受賞）を講師に迎え、たしずるボードのワークショップと、その成果展示を実施しました。ワークショップには小学 4 年生から高校 3 年生の 19 名が参加し、それぞれの感性を光らせる作品を完成させました。また市民公募による「市民がつくるコンサートシリーズ」では、“コーラス”を初めて取り上げ、団体ごとの演奏のほか、合同合唱を行うなど、市民の交流を促進するための仕掛けを取り入れ、開催しました。



創造活動支援事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
4/26(土) ～ 5/6(火・祝)	ギャラリー ー	絵本作家 ひらぎみつえ あそべる絵本展	代表作に『お？かお！』『ころりん・ぱ！』などのしかけ絵本や、『もふもふちゃん』などの幼少期の子どもたちに人気の高い絵本を手掛ける、ひらぎみつえの絵本展を開催。「見て、読んで、さわって」をコン	6,986 名

			セプトに、絵本作品や、大型しかけ絵本のパネルなどを展示しました。図書館とも連携し、作家本人によるワークショップや司書による絵本の読み聞かせなど、絵本展にとどまらず、館内へ企画の拡がりを持たせることにより、更なる来館誘致につながりました。	
7/27 (日)	メイン ホール	みんなの音楽会 シリーズ vol.7 手話 フェス ～ Song of Sign in YAMATO～	すべての人が文化芸術に触れる機会を創出する「みんなの音楽会シリーズ」の第7弾として、手話パフォーマーのHANDSIGN が総合プロデュースをする「手話フェス」を開催。鑑賞サポートとして、難聴者支援システム、舞台手話通訳者、Uni-Voice（視覚障がい者向け音声読み上げ機能）、点字プログラムなどを採用した上、安心してご来場いただけるよう、客席案内係にサービス介助士や手話通訳者を配置するなど環境整備にも配慮し、文化芸術が果たせる「共生社会の実現」を体現する企画となりました。	733 名
9/15 (月・祝)	メイン ホール	市民がつくるコ ンサートシリー ズ vol.9 SiRiUS コーラス 祭	大和市で演奏活動を行うコーラス団体を公募し、高校合唱部から、平均年齢 70 歳を超えるシニア合唱団まで 11 団体が出演しました。今回の新たな取組として、大和市音楽家協会会長・加藤大聖を指導者に迎え、参加団体からの選抜メンバーによる特別合唱団を編成。フィナーレに特別合唱として「時を超えて」を披露しました。またアンコールでは、会場全員で「翼をください」を合唱。出演者も観客も一体となり、会場はあたたかな空気に包まれました。	参加者 約 250 名 入場者 739 名
12/7 (日)	メイン ホール	市民がつくるコ ンサートシリー ズ vol. 10 SiRiUS DANCE STAGE	大和市で活動する市民 DANCERS を公募し、小学生からシニア層までが所属する 8 団体が出演。ヒップホップ、モダンダンス、フラダンス、ジャズダンスなど様々なジャンルのダンスを披露。今回は、初めて大きな本番に臨む子どもたちや、新たに結成したグループの出演、この本番に向け準備し	参加者 85 名 入場者 739 名

			た新たなプログラムを披露するなど、それぞれの団体が思いおもいのパフォーマンスを披露しました。各団体の幕間では出演者へのインタビューなども行い、市民活動の告知をする機会につながりました。	
12/26 (金)	サブ ホール	< 関連イベント > YAMATO Players による スペシャルプレ トーク	新日本フィルハーモニー交響楽団 feat. YAMATO Players に出演する大和市ゆかりのソリストと指揮者をパネラーに迎え、クラシック音楽ファシリテーター・飯田有抄による進行にて、翌日に控えた本番を深掘するプレ・イベントを実施しました。演奏者側が感じる本番への貴重な思いや、意気込みなど、普段あまり聞くことができない貴重な内容が語られました。	39 名
【ワークショップ】 1/11 (日) 1/25 (日) 2/1 (日) 2/8 (日) 2/22 (日) 【展示】 2/27 (金) ～3/1 (日)	マルチス ペース ギャラリー	【ワークショップ】 金城まみ シズル ボード ワークシ ョップ 【展示】 「見て味わう、お いしいアート展」	大和市内にアトリエを構えるチョークアーティストの金城まみとの共同で、小学4年生～高校3年生対象に「シズルボード」ワークショップを開催しました。全5回のワークショップの中で、画材の扱い方や描きたい食べ物をより良く見せるためのレイアウト、シズルボードの特徴でもある文字の入れ方などを習いながら作品制作に向かいました。 展示発表では、参加者が自身の作品を説明した後、講師から講評とワークショップ修了証を授与しました。一人ひとりの本気と頑張りを認め、今後の芸術活動を後押しする機会となりました。	ワークショップ 参加者 19 名 展示 791 名

c) 人材育成・普及事業

一流のアーティストに直接指導を受けるバレエレッスンや楽器体験、地域のアーティストに協力を仰ぎ、学校へ赴き、授業を行う学校プログラムなどを実施しました。未就学児から中学生まで次代を担う若年層を中心に行い、文化芸術の「扉をひらく」「深く知る」ことに加え、文化芸術への興味を育む機会として全6事業を実施しました。



人材育成・普及事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
6/27 (金)	メイン ホール	憧れのアーティストによる夢のレッスン～ワルター・アウアーによるフルートレッスン	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席フルート奏者ワルター・アウアーによるクリニックを実施しました。中学生・高校生の吹奏楽部部員を対象とし、基礎的奏法の指導を頂きました。聴講生も多く参加し、講師の指導に耳を傾けていました。世界の第一線で活躍するフルート奏者との交流により、若い世代の文化芸術振興と育成につながりました。	【受講者】 中学校 7校・25名 高校 4校・8名 計33名 【聴講生】 中学校 183名 高校40名 計223名
7/11 (金)	下福田 小学校 音楽室	学校プログラム 「雅楽の調べ」	学校からの要望を受け、6年生3クラスを対象とする「雅楽」のアウトリーチ活動を実施しました。出演は大和市雅楽協会会長・松永耕作へ依頼し、笙、箏、龍笛のトリオの編成で、雅楽の代表曲や楽器説明などを行いました。会場が音楽室だったことから、楽器に触れたり、間近で雅楽の音楽を聞いたりする貴重な機会になりました。	100名 (教職員含む)
8/24 (日)	メイン ホール	子どものための楽器体験 ガムラン・トゥラン・ブーラン for KIDS	未就学児と小学生を対象に、バリ島の伝統音楽であるガムランを取り上げ、それぞれ1回ずつ実施しました。様々なガムラン楽器を一緒に演奏することで紡ぎだされる独特のうねりを間近で感じ、音楽に合わせて舞も体験。異文化に触れる面白さや楽し	未就学児の回 20名 小学生の回 18名

			さを知るだけでなく、舞台上という特別な環境だからこそ感じる希少な機会を通じ、ホールや文化芸術に興味を持つきっかけを創出することにつながりました。	
10/5 (日)	メイン ホール	キーウ・クラシック・バレエ団による公開リハーサル・バーレッスン	大和市のバレエ教室を対象に、バーレッスンの共演とリハーサル公開を実施しました。バーレッスンには、小学生から中学生までの 5 名が参加し、出演者とともにステージ上で体験する特別な機会となりました。リハーサル公開では、本番に向けて調整や確認を行うプロの姿勢と、より良いパフォーマンスを追及し、話し合いなどを行いながら修正を加えていくリアルな様子を客席で鑑賞しました。この企画を通じて、子どもたちが本物を知る特別な時間となりました。	リハーサル公開 38 名 バーレッスン 5 名
12/16 (火)	西鶴間 小学校 体育館	学校プログラム やまと寄席～特別 編～ 落語のいろは	学校からの要望を受け、6 年生を対象に「落語」のアウトリーチを実施しました。出演は、大和市ゆかりの落語家・柳家あお馬と太神楽師・鏡味仙成の 2 名に依頼。落語の所作や小物の説明に加え、教科書に掲載されている「寿限無」「初天神」など、指導要領にあわせた内容で構成しました。古典芸能を間近で鑑賞する特別な機会につながりました。	135 名 (教職員含む)
1/19 (月)	柳橋小学 校 体育館	学校プログラム 「雅楽の調べ」	学校からの要望を受け、6 年生を対象とする「雅楽」のアウトリーチ活動を実施しました。出演は大和市雅楽協会会長・松永耕作へ依頼。笙、箏、龍笛のトリオの編成で、雅楽の代表曲を演奏し、楽器の説明などを行いました。また、体験用の楽器もご用意いただき、楽器に触れる特別な機会を設けました。楽器の面白さや難しさを知り、鑑賞だけでは得られない特別な機会となりました。	90 名 (教職員含む)

d) 連携事業

施設の特性を取り入れた本を題材とした事業、神奈川県高齢者福祉施設協議会との連携、地域メディアとの協働企画に加え、施設内のスターバックスコーヒーとの連携企画など、ホール内にとどまらず、様々な場所・人と連携を試み、事業を実施しました。

中でも開館以来“初”となる有観客での避難訓練コンサートでは、大和市をはじめ、大和市消防本部や横浜市消防音楽隊などとも連携を図り、防災への啓発、施設としての防災への取組を周知することができました。東日本大震災から15年という節目の年に、施設内スタッフ、利用者、共々防災への意識醸成が再びできたのではないかととらえております。連携事業は、全5事業を実施しました。



連携事業				
日付	会場	事業名	内容	入場者数
9/23 (火-祝)	メイン ホール	伊藤花りん サンドア ート・パフォー マンス・コン サート	「アート」と「音楽」を掛け合わせた、新たなスタイルのコンサートを開催しました。シリウスの施設特性にあわせ、「シンデレラ」「不思議の国のアリス」「かぐや姫」など、誰もが手にしたことがある図書に関連した作品を中心に取り上げ、生演奏にあわせて移り変わる幻想的なサンドアートの世界をお楽しみいただきました。	410 名 ※1階席のみ
10/24 (金)	みなみ風	みんなの音楽 会 出張版 みるとの“オ カリナ・コン サート”	令和7年度から大和ケアマネージャー連絡協議会に代わり、神奈川県高齢者福祉施設協議会との連携を開始し、訪問する大和市内福祉施設を決定しました。演奏は大和市ゆかりのオカリナ奏者・みるとに依頼をし、歌謡曲やスタンダードジャズ、唱歌などを中心に構成しました。入所者は、演奏に合わせて手拍子や歌ったりと約1時間のミニ・コンサートを鑑賞。アンコールが終了した際は、万雷の拍手がなり続け、音	105 名

			楽を通じて心に豊かさを届けることができました。	
12/20 (土)	サブホール	カフェとおんがく ～ハンドフルートの音色と コーヒーの香り	毎年の恒例イベントとなったスターバックスコーヒーYAMATO 文化森店と連携したコンサートを開催しました。サブホール内を店舗に見立て、テーブルや椅子とクリスマス装飾や照明により、カフェ空間を創り出しました。スターバックスコーヒーのバリスタたちによるコーヒー・トークとともに、ハンドフルート奏者・高山大知による演奏で構成。文化芸術を気軽に楽しむ機会につながりました。	1 回目 52 名 2 回目 30 名
3/11 (水)	メインホール	避難訓練コンサート	シリウス全館および大和市消防署、横浜市消防音楽隊との協力のもと、初となる有観客での避難訓練コンサートを開催しました。平日昼間の公演にもかかわらず、お客様参加型訓練として各所からも注目度が高く、チケットは早々に予定枚数終了となりました。 また今回の公演にあわせて、同日にサブホールで大和市消防署による啓発イベントを実施し、約 250 名の来場者がありました。日々の生活の中での備えや心構えを学び、施設の防災に対する取組をお知らせすることで、安心してご利用いただける施設であることを周知する機会となりました。	526 名 (予定枚数終了)
3/20 (金・祝)	イトーヨーカドー 大和鶴間店 2 階催事スペース	FM やまと×やまと芸術文化ホール×J:COM presents 春のうららか”ちょこっと”コンサート	地元のメディアとの協働で「企画→広報→当日運営→事後広報」をともに展開したイベントを開催しました。「地域に根差した活動をし、大和市の魅力を発見する」というねらいを掲げ、地元アーティストに出演を依頼。一回目はオカリナ奏者・みると率いるデュオによるファミリー向けプログラム。二回目はシンガーソングライター宇雪による大人向けのプログラムで構成し、文化芸術を身近に感じてもらうとともに、地域と文化芸術をつなぐ機会を創出しました。	【1 回目】 150 名 【2 回目】 90 名

ウ) 市民参加型事業

地域の文化施設を支える市民とのつながり築くため、次世代育成の取組に協力し、主催事業を支えるコアファンである友の会会員への継続的なサービスの提供に加え、主催事業へご来場された市民の生の声に耳を傾けるなど、一人ひとりのニーズに寄り添えるようなサービスを実現し、施設への愛着につながるような活動につなげました。

a) 市内小中学校の受入れ

令和 7 年度は小学校からの希望が無かったため、学生を対象にした施設見学会の実施はありませんでした。中学校の職場体験では 2 校の受入れを行いました。ホールの様々な専門スタッフの仕事を体験してもらい、仕事の面白さや奥深さを知っていただく機会となりました。

b) アンケートの実施と分析

令和 7 年度も主催公演にて来場者に向けたアンケートを実施し回収しました。回収率は平均で 25%を超え、来場者の平均年齢が高い公演ほど、アンケートの回収率も高くなる傾向にありました。また、ウェブアンケートも同時に実施しており、若い世代の来場者が多いほど、回答割合が高くなることが結果として示されています。また、ウェブアンケートの回答率は全体の約 5%で、令和 6 年度とほぼ同率でした。その他、お住まいや公演満足度、認知経路なども令和 6 年度比で大きな変化はありませんでしたが、50 代の来場割合が減少し、80 代の来場割合が増加した点においては、高齢層をターゲットにした企画を誘致したことが大きな要因と考えられます。多くの方から様々な声が寄せられていることを踏まえ、令和 8 年度以降の自主事業の開催において、より良い企画、サービス展開につなげられるよう参考にしてまいります。

c) 友の会会員獲得に向けた広報活動の実施

友の会会員の獲得への施策として、半期ごと作成する入会促進用のチラシとともに、自館で発行する媒体には、友の会特典の案内など広報活動を展開しました。会員特典の一つであるメールマガジンでは、自主事業の告知だけでなく、アーティストインタビューや実施後の公演レポートなど、ホールの取組を知るためのツールとして、定期的に発信を行いました。その結果、主催公演チケットを購入された約 60%の方が友の会会員という結果につながりました。

エ) 情報発信事業

市民の方が情報を得られる機会を少しでも多くするため、市内公共施設への配架やポスター掲示、近隣施設への配架協力依頼、関係団体からの情報発信など、芸術文化ホールの活動周知のための取組を推進しました。

a) 定期広報紙「ステージガイド」を使用した広報

イベント情報の告知だけでなく、読み物としての紙面価値を向上させるため、各号で注目のアーティストへのインタビュー記事を掲載しました。また裏面に掲載しているイベントレポートでは、文化振興を目的とした事業を多く取り上げ、公演事業だけでないホール事業の取組を伝える媒体としての役割も担いました。

b) ホームページと各広報媒体との連動

アーティストインタビューを行った事業では、全文をホームページに掲載し、一部抜粋したものを紙の広報媒体に掲載し、二次元コードで WEB へ誘導するなどを行いました。

また、ホームページ内のページを一部システム改修し、より分かりやすい構成になるように修正しました。YAMATOMIRAI ポータルサイトでは、情報制限のある事業以外、イベントレポートを掲載し、ホールの取組を広く周知しました。

ホームページへの流入経路については、紙媒体からの流入数は多くないものの、一定数あることは確認されているため、どの媒体においても終着地はホームページであるように情報の統一を図りました。

c) ポスターボードやチラシ Rack を活用した情報発信

事業の認知経路の上位に位置するチラシやポスターによる情報発信だけでなく、チラシ Rack 横に出演者のインタビュー動画を放映したり、図書館との協力で関連図書との連携をしたり、より効果を高めるための施策を行いました。これまでどおり、館内外のポスターボードやチラシ配架や設置などは、継続的に実施し、より多くの方の目に留まるように広く展開をしました。

d) 各種媒体への情報掲載

事業ごとにプレスリリースを作成し、各種媒体へ定期的なリリースの配信を行いました。紙媒体だけではなく、地域情報を発信しているウェブサイトなどにも情報掲載を依頼し、多くのメディアで取り上げられました。

e) 地元媒体との連携強化

地元アーティストを取り上げる事業では、地域メディア 3 社と広報協力体制を築き、テレビ・ラジオ・地域情報誌からの情報発信を行うだけでなく、出演者を稼働した取材の受入れや、担当者が番組に出演しての告知を行うなど、市内への情報発信を強化しました。

2) 実施体制

芸術文化ホールには貸館事業を担う運営部門、文化芸術事業を担う事業部門を設置し、円滑なホール運営を行いました。さらに芸術文化ホールの広報部門がやまとみらい全体広報を担いました。舞台設備管理は株式会社シグマコミュニケーションズへ委託しました。

④ 舞台設備管理

舞台設備の管理においては、接客対応力および技術的専門知識の向上に継続的に取り組むとともに、文化芸術への理解を深め、市民文化団体や一般利用者と連携しながら、「市民が主役」となる舞台環境の実現を推進しました。

また、すべての利用者にとって安心・安全な環境の提供を最優先とし、安全管理体制の徹底と適切な運営により、信頼される施設運営に努めました。

さらに、指定管理者（サントリーパブリシティサービス株式会社）と連携し、各種事業に協力しました。具体的には、令和7年11月及び令和8年1月の中学生職場体験の受入れ、令和7年8月及び令和8年3月に実施されたシリウス探検ツアー、さらに令和8年3月に実施された避難訓練コンサートへの協力を通じて、施設の活用促進と円滑な事業運営に寄与しました。

プロ公演においては、外部業者と連携し、機材設営時の安全管理の徹底および法令に基づく作業手順の遵守、設備・備品の利用支援を実施することで、公演の円滑な進行を支えました。また、近隣管理施設との連携により、不測の事態に備えたバックアップ体制を維持し、安定した公演運営の確保に取り組みました。

1) 設備機器の安全確保

舞台設備および備品について、日常点検と定期保守点検を計画的に実施し、安全性及び安定稼働の確保に努めました。これにより、設備不良の早期発見と迅速な対応を実現し、重大事故の未然防止につなげました。

ア) 舞台技術スタッフによる日常点検・保守点検

技術スタッフは、作業開始前の目視確認に加え、作業中における異常音・振動・異臭の確認を徹底しました。不具合発生時には速やかに初期対応を行い、状況報告を作成のうえ専門業者と連携し、早期復旧に努めました。これにより、設備の健全性と継続的な運用を維持しました。

【主要な保守対応および修理履歴】

令和7年5月

音響: 仮設スピーカー低音ユニットに歪が発生。保守業者による持ち帰り修理を実施。

令和7年6月

舞台: 客席迫に異常が発生し、動作不良。保守業者を呼び、迅速に復旧対応を実施。

舞台: 舞台機構操作卓に不具合発生。保守業者を呼び、検証および復旧対応を実施。

令和 7 年 8 月

舞台: バトンから異音が発生。保守業者を呼び、対応後、部品交換を実施。

音響: 常設スピーカーの内部回路に不具合発生。保守業者と調整し、代替機と交換後、修理対応。

令和 7 年 11 月

照明: 調光卓に不具合発生。保守業者を呼び、調査後、代替機と入替え修理を実施。

令和 8 年 2 月

舞台: 袖幕のレールに異常発生。保守業者による調整を実施、年間保守計画に追加。

客席: 通路足元灯の外装破損。部品交換を実施。

イ) 専門会社による保守点検

音響・照明・舞台・客席設備について、専門業者による定期保守点検を実施しました。専門的視点による点検により潜在的な不具合の早期発見と適切な修繕対応を行い、施設全体の安全性と信頼性の向上を図りました。

また、ピアノについても計画に基づき定期調律および総合点検を実施し、良好な演奏環境の維持に努めました。

(定期保守点検)

設備	施設	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
音響	メインホール				7-9					24.25			
	サブホール					25.26					28		
照明	メインホール						2-4						17-19
	サブホール						8.9						3.4
舞台	メインホール		12			4.5			4.5			16	
	サブホール		12			5			4			16	
客席	メインホール					5						16	
	サブホール			4							20		

※定期保守点検は、各設備の専門会社に再委託しました。

(ピアノ調律・点検)

ピアノ	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
フルコン 1	8		3		18		6		2		17	
フルコン 2	8		3		19		6		2		17	
グランド	8		3		14 15		6		8		17	

※ピアノの定期調律・総合点検は、専門会社に再委託しました。

2) 設備機器の長寿命化

設備の長期的かつ安定的な運用を目的として、専門業者と連携し中長期的な修繕計画の検討および見直しを行いました。日常点検・定期点検で把握した不具合に対しては使用頻度の度合いを考慮して修理の優先順位を選定し、修理期間中もご利用者に不便をかけないよう配慮しつつ、必要に応じて代替え機との交換などの調整も行い、適切に対応しました。また、機器の耐用年数や劣化状況を踏まえた計画的な修繕を実施し、突発的な故障リスクの低減と設備の長寿命化を図りました。さらに、令和 7 年度は舞台機構操作卓クライアント PC の更新や三点吊マイク装置の滞っていた更新提案を進めるよう働きかけ、市及び指定管理者とベンダーとの間で専門的な立場からの橋渡し役を務めることで、連携をより円滑化しました。

3) 事故の未然防止

事故防止対策として、本社安全委員会より定期的に発行される「安全だより」を活用し、全スタッフへの継続的な情報共有を実施しました。

令和 7 年度は、5 月に他施設での事故事例を共有し、類似事故の再発防止に向けた注意喚起を行いました。7 月には熱中症対策の周知および本社から各事業所への冷却材配布が実施され、夏季作業時の安全確保を図るとともに、墜落制止用器具の耐用年数確認および安全点検についても周知しました。

9 月には救急車手配時の対応手順について共有し、緊急時対応力の向上を図りました。12 月には職場の安全に関する情報サイトの紹介および労働災害事例の共有を行い、安全意識の向上を促進しました。2 月には充電式蓄電池の危険性や関連事故事例、電源ドラムの安全な取り扱いについて周知し、日常業務におけるリスク低減に努めました。

さらに、必要に応じて安全運用ミーティングを実施し、5 月および 1 月には全スタッフを対象に安全管理に関する情報共有と認識の統一を図りました。特に 1 月のミーティングでは、避難経路や誘導方法、担当エリアの確認を行い、災害時対応体制の強化につなげました。

これらの取組により、安全意識の向上と危険予知能力の強化を図り、事故の未然防止に努めました。

4) 舞台安全マニュアルの活用

舞台安全マニュアルを活用し、日常業務における安全管理の徹底を図りました。また、現場運用や安全情報を踏まえ、内容の見直しを適宜実施しました。

7 月に、墜落制止用器具の点検にあわせて高所作業に関する安全対策の再確認を行い、高所作業マニュアルの見直しを実施しました。これにより、現場実態に即した実効性の高い内容へと更新し、作業時のリスク低減と安全性の向上を図りました。

5) 研修によるスタッフの育成

スタッフの専門性向上、安全意識の強化および接遇力の向上を目的として、各種研修を実施しました。

5月2日から4日にかけて、他施設における技術研修に2名が参加し、舞台設備の運用技術や現場対応力の向上を図りました。5月14日には全スタッフを対象とした舞台安全運用ミーティングを実施し、安全管理に関する共通認識の醸成を図りました。

9月22日には普通救命講習（AED）に2名が参加し、緊急時の初期対応能力の向上を図りました。1月28日には全スタッフを対象とした安全運用ミーティングを実施し、避難経路や誘導方法、担当エリアの確認を行いました。

さらに、2月16日には接客・対人スキル向上研修を実施し、利用者対応の質の向上に努めました。これらの研修を通じて、技術力・安全対応力・接客力の各側面におけるスタッフの能力向上を図り、質の高い施設運営体制の強化につなげました。